



熱い!!

# 全国で成果をあげる プロファイnderユーザーの声

「まずはハウス内環境の把握から。湿度を重視した管理で収量増！」片山 普永様(高知県高知市 キュウリ生産者)



地区	高知県高知市
作物	キュウリ(穂木:千秀2号)
台木	ゆうゆう一輝(黒タイプ)
作型	土耕、年1作つる下ろし
施設面積	11.7a
定植	10月3日~6月末(次作以降は9月中旬定植へ変更予定)
定植本数	1.3本/m <sup>2</sup> 、4本仕立てで主枝は5.2本/m <sup>2</sup>
プロファイnder導入日	2016年10月

**【導入したきっかけは？】**

土佐市で行われた誠和の勉強会に参加して齊藤さんの話を聞いたことです。正直、それまでは環境制御の“か”の字も知りませんでした（^◇^）。近くのキュウリ生産者の矢野さん（すでに参加経験あり）からも「面白いから聞きに行ってみろ」と言われていました。勉強会では、これまでにないほどの感銘を受け、かつ収量を向上するためにこれだ、と直感的に感じました。聞いた内容を実践するためには、まずはハウス内がどのような環境になっているのかを把握する必要性を感じ、迷うことなく導入を決めました。

**【導入した感想は？】**

まずはハウス内環境の変化を知ることに努めました。例えば、天窓を開閉した場合とサイドを開閉した場合に温度と湿度はどのような動きをするのか、3日間ハウスに張り付いて観察してみました。すると、自分のハウスでは天窓を開閉すると湿度が、サイドを開閉すると温度が、比較的大きく変化することがわかりました。まず重要なことは、ハウス内の機器の動作に対して温湿度がどのような動きをするのかを把握することだと思います。それを踏まえた上で、私は湿度を重視した管理を心がけています。具体的には、厳寒期でも日中に相対湿度 80%弱、温度 28℃となるように管理していますが、現実はなかなか理想通りにはいきません（特に厳寒期の夕方に 28℃を目指しても 23℃程度）。ですが、日中でも暖房をしながら天窓を開けるなど、より目標に近付ける努力をすることが大切だと思っています。年中この意識で管理していけば、日平均気温は日射量に合わせて上下してくれますし、自分の中では手ごたえを感じています。環境制御を初めて、初年度は前年比 150% (24t/10a→36t/10a) にまで増収することができました。これまで発生していた流れ果が大きく減少し、収量の山谷が少なくなりました。同時に秀品率が高くなりましたね。まだ 2 作目ですが着実に収量が伸びているので、今後も継続していきたいと思っています。

**【今後の抱負は？】**

短期目標として、まずは収量 40t/10a の達成です。今作は 5 月末までで前作比 1.5t/10a 増と前作を上回る予想です。1 作目では偶然できていたことが 2 作目では確信につながった部分も多くあります。次作は定植時期を早めて栽培期間を延ばし、5 月末（梅雨前）までに 36t/10a の達成を一つの目安として取り組んでいきたいと思っています。引き続き誠和の勉強会やセミナーには参加していかなければいけないと思っています。将来的には規模拡大、雇用の面も挑戦していくことで年収 1000 万円に乗せていきたいと考えています。現在は環境作りのために天窓を手動中心で動かしていますが、統合環境制御装置も導入していきたいですね。

**【誠和担当者からの一言】**

高知営業所の松下です。片山さん、お忙しいところインタビューを受けていただきありがとうございました。片山さんには、たびたび訪問する際に取り組みに対する意識の高さに驚かされます。衝撃的だったのは、自分の目指す環境作りのために天窓をほぼ手動で動かしているというところです。これまでも多くの生産者の方とお会いしてきましたが、再々手動で管理して、なおかつ上手な環境づくりをされている方にはなかなかお会いできません。その成果はプロファイnderのデータや収量が明確に示していると思います。前作、今作とも地域でトップクラスの収量を上げられており、さらには 40t/10a を目指すという明確な目標も聞いています。高知市春野町にはキュウリ生産者が多数いらっしゃいます。地域を盛り上げるべく、片山さんの目標達成のために勉強会や我々営業担当が少しでも貢献できれば幸いです。引き続きよろしく願いいたします。